

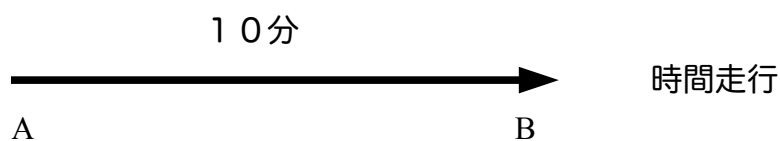
時間走行及びノーチェックポイント区間について

時間走行とは・・・

通常、ラリーでは定められたルートを指示された速度により走行します。



これとは違い、特定区間を指定時間で走行しなさいという指示があります。
このことを”**時間走行**”といいます。



ノーチェックポイント区間とは・・・

原則としてチェックポイントはどこに出てくるかは事前に公開されていません。従って、参加者はいつチェックポイントが現れても良いように、常に指示速度走行を行う必要があります。

しかし、交通事情等により、チェックポイントを置くことができず、しかもその区間を指示速度走行することで、一般交通の妨げになる恐れがある場合は、”この区間はチェックポイントがないので安心してください”と事前に参加者に公開します。

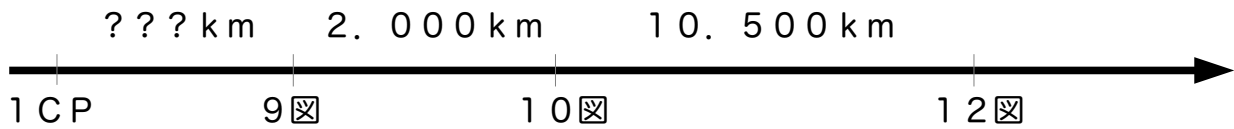
この区間のことを”**ノーチェックポイント区間**”といいます。

次のページからは、それぞれの区間を正しく走行するための基本事項を説明いたします。

時間走行の基本

以下は基本的な時間走行指示に対する流れです。

例：



- ① 1 CP から AVE 20 km/h
- ② 9 図から AVE 25 km/h
- ③ 10 図から 12 図まで 20 分で走行（時間走行区間）
- ④ 12 図から AVE 20 km/h

※ 1 CP のスタート時刻は 10 : 10 : 00 とします。

このような指示になっている場合は、最終的に何をしたらよいでしょうか？



時間走行区間の終了地点（12 図）の通過時刻を計算します。

では、計算してみましょう。

1. まずは、1 CP から 9 図までの距離が ??? となっていますね。これは、1 CP の位置が 1 CP に行くまでわかりませんので、現状では ??? となっています。1 CP ~ 9 図までの距離が不明だと、9 図を何時何分何秒に通過すれば良いか不明ですよ？ということで、まずやることは、「1 CP から 9 図までの距離を計測」、つまり

CP から次のコマ図までの距離を計測する

ということになります。これが非常に大切で、これを計測し忘れると、12 図の通過時刻が正確に計算できませんので、忘れないようにドライバーと協力しましょう。

で、今回は計測の結果、??? の部分は「1.500 km」だったとします。

すると、1 CP からの AVE は 20 km/h ですから、1 CP ~ 9 図の所要時間は、

$$1.500 \text{ km} \div 20 \text{ km/h} = 4 \text{ 分 } 30 \text{ 秒}$$

となります。つまり、9 図の通過時刻は 1 CP のスタート時刻 10 : 10 : 00 に 4 分 30 秒を加算した

10 : 14 : 30

となります。

2. 次は、時間走行の開始地点の通過時刻を計算します。今回の場合は10図ということになります。先ほどと同様に計算してみましょう。9図~10図は2,000kmですから、この区間の所要時間は

$$2,000 \text{ km} \div 25 \text{ km/h} = 4 \text{ 分} 48 \text{ 秒}$$

となり、9図のスタート時刻10:14:30に4分48秒を加算した

$$10:19:18$$

が10図、つまり時間走行開始地点の通過時刻ということになります。

3. 時間走行開始地点の通過時刻が判明できたならば、あとは簡単で・・・すよね？
いよいよ時間走行区間ですが、10図~12図まで20分で走行という指示です。10図の通過時刻が10:19:18ですから、12図まで20分で走行した結果は、おのずと

$$10:19:18 + 20 \text{ 分} = 12 \text{ 図の通過時刻}$$

ということになります。従って12図の通過時刻は

$$10:39:18$$

ということになりました。これが最終的に求めたかった時刻になります。あとはこの時刻に12図を指示された速度で出発すれば良いということになります。

ちなみに、時間走行区間は、チェックポイントが設置されないノーチェックポイント区間になります。時間走行区間というのは、交通量が多いなど、指示速度を与えることで一般交通の妨げになることが予測される区間等に設置されます。

従いまして、時間走行区間は周りの一般交通の妨げにならないように、安全かつ速やかに時間走行区間終了地点に移動しましょう。

ノーチェックポイント区間について

ノーチェックポイント区間と指示された区間については、チェックポイントが設置されていません。なぜあえて”チェックポイントが無いよ”と公開してしまうのでしょうか？



コースには一般交通量が多い幹線道路が含まれています。そうした部分については、現実的にチェックポイントを設置することができません。しかしながら、皆さんはチェックポイントの場所は不明ですから、いつ現れても大丈夫なように、常時指示速度通りに走行するのが基本ですよね？そうすると、先の交通量が多い幹線道路なども基本は指示速度通りに走行することになると思います。

指示速度は法定速度よりも低く設置されます。そうした指示速度通りに幹線道路を走行した場合、どうなるのでしょうか？・・・一般交通よりも低い速度での走行となってしまう、交通の流れの妨げになってしまいます。これにより交通事故の要因ともなりかねません。

このことを防ぐために、幹線道路等一般交通量が多く、あきらかにチェックポイントが設置できない区間については、その区間を公開することで、参加者はチェックポイントが無いと安心することができ、一般交通の流れに合わせてスムーズな走行をすることができます。

ここで、一つ疑問に思われることがあるかと思いますが、それは

「指示速度ではなく、一般交通の流れに合わせてしまったら、自分が正しく走行できているか分からなくなるのでは？」

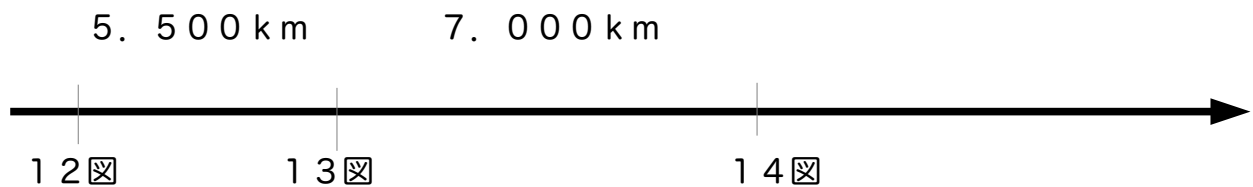
ということではないでしょうか？特にラリーコンピューターが無いクラスBの参加者にとっては、指示速度通りに走行しないと、正しいか否かがわからないですよね？

では、一般交通の妨げにならないで、かつ正しく走行できているかが分かるにはどうすればよいか？

結論から言いますと

ノーチェックポイント区間終了地点の通過時刻を計算する。

です。それでは、やり方をご案内しましょう。



先ほどの時間走行の図の続きだと思ってください。従って、1 2 図の通過時刻は

1 0 : 3 9 : 1 8

とします。指示書には

④ 1 2 図から AVE 2 0 km/h

⑤ 1 3 図から AVE 3 0 km/h

⑥ 1 3 図から 1 4 図先 0. 5 0 0 k m までノーチェックポイント区間

と記載されていました。で、結論「ノーチェックポイント区間終了地点の通過時刻」を求めるわけです。先ほどの時間走行区間の計算ができるようになれば、これはそれほど難しい計算ではないのでは？

1. 1 3 図の通過時刻を求めます。1 2 図～1 3 図の所要時間は

$$5. 5 0 0 0 \text{ k m} \div 2 0 \text{ km/h} = 1 6 \text{ 分 } 3 0 \text{ 秒}$$

$$1 0 : 3 9 : 1 8 + 1 6 \text{ 分 } 3 0 \text{ 秒} = \underline{1 0 : 5 5 : 4 8}$$

2. 1 4 図の通過時刻を求めますが、1 4 図先 0. 5 0 0 k m までノーチェックポイントということなので、結論であるノーチェックポイント終了地点である 1 4 図先 0. 5 0 0 k m 地点の通過時刻を求めましょう。1 3 図～1 4 図が 7. 0 0 0 k m ですから、1 4 図先 0. 5 0 0 k m 地点までは 1 3 図から 7. 5 0 0 k m ということになります。あとは先ほどと同じ計算です。

$$7. 5 0 0 0 \text{ k m} \div 3 0 \text{ km/h} = 1 5 \text{ 分 } 0 0 \text{ 秒}$$

$$1 0 : 5 5 : 4 8 + 1 5 \text{ 分 } 0 0 \text{ 秒} = \underline{1 1 : 1 0 : 4 8}$$

つまり、ノーチェックポイント区間終了地点である 1 4 図先 0. 5 0 0 k m 地点を **1 1 : 1 0 : 4 8** に通過すれば良いということになります。

走行中の流れとしては、まず 1 2 図から 1 3 図はノーチェックポイント区間ではありません。従って、1 0 : 3 9 : 1 8 に 1 2 図を通過したら、時速 2 0 km/h を目標に走行します。そして 1 3 図まで来たら 1 3 図の通過時刻を計算し、ノーチェックポイント区間終了地点までの所要時間を加算し、ノーチェックポイント区間終了地点の通過時刻を算出します。最初の話のように、ノーチェックポイント区間が始まったら、一般交通の妨げにならないように、速やかにノーチェックポイント区間終了地点まで移動します。あとは、先ほど算出したノーチェックポイント区間終了地点である 1 4 図先 0. 5 0 0 k m 地点を 1 1 : 1 0 : 4 8 に通過すれば良いということになります。

ここで、先ほど

「指示速度ではなく、一般交通の流れに合わせてしまったら、自分が正しく走行できているか分からなくなるのでは？」

という疑問がありましたよね？ ところが、もう皆さんはすでに”14 圏先0.500 km地点の通過時刻”が分かっていますので、13 圏~14 圏先0.500 kmのノーチェックポイント区間については、必ずしも正しく走行できているか分からなくても大丈夫。つまり、一般交通の流れに合わせて走行しても大丈夫、ということになります。

長くなりましたが、最後にまとめです。

1. 時間走行区間はノーチェックポイント区間でもある。
2. 時間走行区間及びノーチェックポイント区間は、区間終了地点の通過時刻を計算する。そのためには、まず時間走行区間開始地点の通過時刻を計算する。
3. 時間走行区間及びノーチェックポイント区間は、一般交通の妨げにならないように、交通ルールを守りつつ速やかに区間終了地点まで移動する。

この3点をしっかり行えるようにできれば、スムーズかつ安全なラリー走行ができますので、しっかり覚えておきましょう。